



第30回 国際HPHカンファレンス報告書

2024年11月6日～8日 広島国際会議場

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会

目次

概要報告	2
ご挨拶	
第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 委員長 島内憲夫	3
第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 プログラム委員長 近藤克則	4
役員紹介	
第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 顧問	5
第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 役員・事務局	6
第30回国際HPHカンファレンス主催者・副主催者・科学委員会	7
協賛・後援	9
プログラム	10
背景と目的	12
全体会	
全体会 1	14
全体会 2	15
全体会 3	16
全体会 4	18
全体会 5	20
パラレルセッション	21
日本語企画	23
ポスターセッション	24
GNTH Global Network Conferenceとゴールドフォーラム認証	26
Photo	28
日本組織委員会ニュース・プレ企画・ポスト企画フライヤー	35
御礼の辞	
第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会事務局長 舟越光彦	52

概要報告

The 30th International Conference on Health Promoting Hospitals and Health Services (国際HPHカンファレンス) が2024年11月6-8日に「健康の公正性を目指して～医療機関と介護事業所の貢献～ (The contribution of Health Promoting Hospitals and Health Services to health equity)」をテーマに開催されました。関係者の皆様に、その経緯と概要を報告し、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

同カンファレンスは、世界保健機関 (WHO) が1986年のオタワ (Ottawa) 憲章で定義したヘルスプロモーション活動を世界中に広げ、health for allの実現を目指す取り組みです。WHOの呼びかけに呼応して1989年に結成されたヘルスプロモーションに取り組む医療機関とヘルスサービスの国際ネットワークInternational Network of Health Promoting Hospitals and Health Services の年次総会にあたり、それぞれの国や機関における取り組みやそこから得られたエビデンスや教訓を交流することを目的に開催されている国際会議です。国際HPHネットワークが当初ヨーロッパで組織され、加盟国が北米やアジアなどに広がったことを背景に、今までの国際会議はヨーロッパ諸国を中心に欧米で開催されており、アジアで開催されるのは、台湾に次いで日本が2カ国目です。日本HPHネットワークが組織されたのは2015年で、加盟事業所数は123 (2024年10月11日現在) に増え、世界で2番目に加盟事業所数が多い国になりました。毎年の国際HPHカンファレンスでの日本からの発表演題数も少なくなかったことから、同カンファレンス初の日本開催を打診され、2023年5月の国際HPHネットワーク総会にて、今回の日本開催が決定されました。2023年6月に、第一回の日本組織委員会を開いて以降、国際HPHネットワーク科学委員会および事務局と協力して準備を進め、無事に本カンファレンスを開催することができました。

本カンファレンスの参加事前登録者数は約800人、うち日本から約300人、参加国数は34カ国に上りました。開会式では、10月にノーベル平和賞の受賞が決まった日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) から児玉三智子事務局次長による被爆者の証言を拝聴する機会を得ました。感動した聴衆が立ち上がりスタンディング・オベーションを送ったこと、健康の条件前提は、平和、社会正義と公正などであると謳ったオタワ憲章の意義を確認する機会になったことも記しておきたいと思います。3日間に、5つのプレナリー、4つのパラレルセッション、2つのミニオーラルセッション (187演題)、3つのポスターセッション (444演題)、医療生協の組合員や健康友の会の皆さんに日常の取り組みを紹介していただいた日本語企画を持ちました。詳しくは、各報告をご覧ください。

第30回国際HPHカンファレンスの日本開催によって、日本の医療関係者の間で、健康教育にとどまらないヘルスプロモーションの本来の意義や活動戦略が受け止められ、日本のヘルスプロモーションの先進性と到達点を確認し、さらに前進させるための課題を論議する機会となったことを願っています。

世界医師会長も歴任された横倉義武日本医師会名誉会長をはじめ日本の主要な医療関係団体の先生方に顧問にご就任いただいたことで、組織委員会の取り組みに弾みがつき、成功裡に本カンファレンスを終えることができました。ご支援ご協力いただいた皆様に、心から御礼申し上げます。

文責：近藤 克則

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 プログラム委員長

日本HPHネットワーク CEO

千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり共同研究部門 特任教授

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部長 (併任)

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 委員長 島内 憲夫

日本HPHネットワーク 特別顧問

順天堂大学名誉教授・医学博士

広島国際大学客員教授・ビューティ&ウエルネス専門職大学 客員教授

日本ヘルスプロモーション学会 名誉理事長



第30回国際HPHカンファレンス 開催趣旨

第30回国際HPHカンファレンスが、2024年11月6日～8日、広島国際会議場で開催されます。

テーマは、「健康の公平性を目指して～医療機関と介護事業所の役割～」です。

国際HPHカンファレンスは、1993年に第1回が開催されて以来、病院を舞台としてヘルスプロモーションやヘルスサービスをめぐる様々な問題について議論を重ねてきました。

開催国は、オーストリア、スウェーデン、フランス、イタリア、フィンランドなどヨーロッパ地域が中心です。2022年10月開催予定の第29回国際HPHカンファレンス2022は、COVID-19のパンデミックとウクライナでの戦争のため、中止とすることを国際HPH運営理事会で決定しました。日本でもCOVID-19の感染流行は、緊急事態宣言の発出を余儀なくされました。医療と介護の現場では、感染リスクの不安を感じながらもスタッフは懸命に従事する一方、働く場を失い困窮状態に陥る人達や困窮のために医療にアクセスできない人が増加するなど、日本社会の綻びが可視化されました。

国際HPHカンファレンスは、アジア地域では、2012年の第20回の台湾に次いで日本で2度目の開催になります。日本では、2015年に日本HPHネットワークが組織され、今年で9年目を迎えます。私は、初代のCEOを務めましたが、昨年より千葉大学予防医学センター健康まちづくり共同研究部門 特任教授の近藤克則先生が務めています。公益社団法人福岡医療団理事長・千鳥橋病院予防医学科科長舟越光彦先生が日本コーディネーターを務めています。その他、特別顧問（ドン・ナットビーム：シドニー大学公衆衛生学教授）・顧問・運営委員・監事によって運営されています。

第30回のテーマは、「健康の公正性」です。WHOヘルスプロモーション用語集では、「健康の公正性とは、すべての人がその健康を完全に達成する公正な機会を持つべきであり、誰もその可能性の達成から不利な立場に置かれてはならないことを意味する。健康における不公正は、基本的に健康の社会的決定要因に影響される。健康の社会的決定要因に対処するためのアプローチとヘルスプロモーションにおけるアプローチは、健康の公正性と社会正義に一貫して持続的に焦点を当てている。ヘルスプロモーションの中核となる戦略は、健康のための資源を公正かつ公正に利用することにより、すべての人々が健康の潜在能力を十分に発揮できるようにすることである。」と認められています。

第30回国際HPHカンファレンスにおいて、誰もが公正で幸せを実感できる社会にするために医療機関と介護事業所が取り組むべき課題について真摯に議論したいと思います。

Think Globally, Act Locally!

地球サイズの愛をもって、今できることから始めよう！

2024年2月吉日

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 プログラム委員長 近藤 克則

日本HPHネットワーク CEO

千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり共同研究部門 特任教授

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構研究部長（併任）



記念すべき第30回国際HPH（Health Promoting Hospitals and Health Services）カンファレンスが、日本で開催されることになりました。今回のように「健康格差（Inequalities in Health）」や「健康における公正（Health equity）」がテーマに取り上げられたのは、マンチェスターで開催された第18回国際カンファレンス（2010）で「Tackling Causes and Consequences of Inequalities in Health : Contributions of Health Services and the HPH Network」がテーマでした。当時、私は『健康格差社会』（2005）を出版したものの、国内では「健康日本21（第2次）」（2013-2023）で「健康格差の縮小」を目指すと掲げられる前で、どのように対策を進めるべきかを考える手がかりを求めていました。WHOの提唱によって組織された国際HPHネットワークがあることを知って、マンチェスターの会議に参加しました。日本から参加していた舟越先生（現日本HPHネットワーク・コーディネータ）と「いつか日本にもこんなネットワークを作りたいよね」と話したことが思い起こされます。その後、日本にもHPHネットワークが組織され、いまや世界で2番目に加盟病院・機関が多い国となり、今回、日本で国際カンファレンスが開催されることになりました。

今 Health Equityの重要性が問い直される事象が相次いで起きています。格差の拡大、貧困、高齢化、平和・災害・パンデミック・気候危機など、これらはいずれも、放置すれば社会的に弱い立場にある人ほど健康を損ない、健康格差を拡大するものです。それに対し、HPHネットワークやWHOなど国際機関、そして今では日本政府も、健康格差の縮小を目指して対策を取るようになっていきます。健康格差対策には、ミクロ（臨床）レベルから、メゾ（病院・地域）レベル、マクロ（国・社会）レベルまで、重層的な取り組みが不可欠です。2010年から14年間のHPHによる取り組みを振り返り、どのようなことがなされているのか、そして、今後どのような取り組みがなされるべきなのかを考えるプログラムを企画しています。

日本は、新型コロナウイルス感染症による人口あたりの死亡者数を、英米に比べ5分の1以下に抑えるという成果をあげました。医療従事者の献身的な奮闘と共に、日本社会が持つ力・資源も寄与したと考えます。日本社会のヘルスプロモーションな取り組みを世界に発信し、世界の取り組みに学ぶ貴重な機会となる国際カンファレンスです。ぜひ、1人でも多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。

2024年2月吉日

役員紹介

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 顧問

横倉 義武	公益社団法人 日本医師会 名誉会長
松本 吉郎	公益社団法人 日本医師会 会長
高橋 英登	公益社団法人日本歯科医師会 会長
山本 信夫	公益社団法人日本薬剤師会 会長
松村 誠	一般社団法人 広島県医師会 会長
山本 匡	一般社団法人 広島市医師会 会長
小川 秀興	学校法人順天堂 理事長
横手幸太郎	全国医学部長病院会議 会長
五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
相澤 孝夫	一般社団法人 日本病院会 会長
遠見 公雄	一般社団法人 全国公私病院連盟 会長
吉新 通康	公益社団法人 地域医療振興協会 理事長
高橋 淳	日本医療福祉生活協同組合連合会 会長理事
増田 剛	全日本民主医療機関連合会 会長
焼廣 益秀	広島国際大学相談役 元学長
小橋 元	獨協医科大学 副学長
草場 鉄周	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 理事長
齊藤 恭平	日本ヘルスプロモーション学会 理事長
武見ゆかり	一般社団法人 日本健康教育学会 理事長
渡辺 仁	JA長野厚生連 佐久総合病院 統括院長
今中 雄一	京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専攻長
森 千里	千葉大学 予防医学センター センター長
田中 秀樹	広島国際大学 健康科学部 学部長
湯浅 資之	順天堂大学 国際教養部 グローバル・ヘルスプロモーション・リサーチセンター所長
森川 洋	健康社会学研究会 代表
土肥誠太郎	健康管理研究協議会 会長
福田 洋	産業保健研究会 会長

*顧問の役職は2023年12月28日現在

第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 役員・事務局

日本組織委員会 委員長

島内 憲夫 日本ヘルスプロモーション学会名誉理事長・順天堂大学名誉教授・医学博士
広島国際大学客員教授・日本HPHネットワーク 特別顧問

日本組織委員会 事務局長

舟越 光彦 公益社団法人福岡医療団理事長 千鳥橋病院予防医学科科長
日本HPHネットワーク コーディネーター

プログラム委員会 委員長

近藤 克則 千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり共同研究部門 特任教授
一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部長（併任）
日本HPHネットワーク CEO

プログラム委員会 副委員長

武田 裕子 順天堂大学 医学部 医学教育研究室 教授
中山 健夫 京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授
近藤 尚己 京都大学 大学院医学研究科 国際保健学講座 社会疫学分野 教授
鈴木美奈子 順天堂大学 国際教養学部 准教授

プログラム委員

伊藤 真弘 津軽保健生活協同組合 理事長
尾形 和泰 北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院 院長
福庭 勲 医療生協さいたま生活協同組合 埼玉西協同病院 副院長
前島 文夫 JA長野厚生連 佐久総合病院 健康管理部長
結城 由恵 公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 西淀病院 副院長
根岸 京田 東京保健生活協同組合 理事長
大矢 亮 社会医療法人同仁会 耳原総合病院 副院長 救急総合診療科部長
廣田 憲威 一般社団法人 大阪ファルマプラン あおぞら薬局 理事
岡田 浩 和歌山県立医科大学薬学部 社会・薬局薬学研究室 教授
飯塚 玄明 医療法人社団家族の森 多摩ファミリークリニック
千葉大学予防医学センター 近藤克則研究室 博士課程
西岡 大輔 大阪医科薬科大学医学研究支援センター医療統計室 講師
南丹市国民健康保険美山林健センター診療所 所長
水本 潤希 東京大学 大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター医学教育学部門 博士課程
愛媛生協病院 家庭医療科

事務局

加藤 久美 徳山 通 片岡 彩 池田 浩子 板本 葉子

第30回国際HPHカンファレンス主催者・副主催者・科学委員会

主催者 Organizers

International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services
Gesundheit Österreich GmbH - Austrian National Public Health Institute
Japan Network of Health Promoting Hospitals & Health Services

副主催者 Co-Organizers

European Association of Hospital Managers
European Hospital and Healthcare Federation
European Network for Workplace Health Promotion
Federal Ministry of the Republic of Austria for Social Affairs, Health, Care and Consumer Protection
Global Network for Tobacco-Free Healthcare Services
Health Care Without Harm
International Union for Health Promotion and Education

科学委員会 Scientific Committee

Chair :

Christina Dietscher, International Conference Secretariat

Co-Chair :

Katsunori Kondo, Japan HPH Network
Cristina Aguzzoli, HPH regional Network Italy-Friuli Venezia Giulia
Valentina Bianchi Galdi, GNTH Global Network for Tobacco Free Health Care Services
Mafaten Chaouali, WHO Europe
Shu-Ti Chiou, IUHPE, Task Force HPH and Age-friendly Health Care
Bogdan Chiva Giurca, National Academy for Social Prescribing
Will Clark, Health Care without Harm
Judith delle Grazie, Austrian Federal Ministry of Social Affairs, Health, Care and Consumer Protection
Julia Eder, International Conference Secretariat
Sally Fawkes, HPH Network Australia
Giulio Fornero, HPH regional Network Italy-Piedmont
Mitsuhiko Funakoshi, Japan HPH Network
Pascal Garel, HOPE European Hospital and Healthcare Federation
James Glover, National Human Resources, Health Service Executive, Ireland
Oliver Groene, HPH Network Secretariat
Eeva Häkkinen, former Chair of HPH network in Finland
Fatima Haering, HPH Network Secretariat
Ralph Harlid, HPH Governance Board
Noritake Hirota, Aozora Pharmacy
Marianne Hochet, HPH Governance Board
Wolfgang Huf, Vienna Health Association, Klinik Hietzing
Lenka Hynstova, Ministry of Health of the Czech Republic
Matthias Knopper, Austrian Federal Ministry of Social Affairs, Health, Care and Consumer Protection
Susann Koalick, GNTH Global Network for Tobacco Free Health Care Services
Kim Kuesook, HPH Network Korea

Karl Kuhn, ENWPH European Network on Workplace Health Promotion
Jaekyung Lee, HPH Network Korea
Diane Levin-Zamir, Clalit Health Services, Israel
Ming-Nan Lin, HPH Governance Board, Task Force HPH and Environment
Birgit Metzler, International Conference Secretariat
Elke Miedema, HPH Task Force on Health Promoting Built Environment
Junki Mizumoto
Kyota Negishi
Daisuke Nishioka
Hiroshi Okada, School of Pharmacy, Wakayama Medical University
Toru Oya
Louise Potvin, IUHPE
Daniela Rojatz, Austrian National Public Health Institute
Andreas Ronge-Toloraya, International Conference Secretariat
Ilaria Simonelli, HPH Governance Board, HPH Task Force on Children and Adolescents
Alan Siu, HPH regional coordinator in Hong Kong
Christa Straßmayr, Austrian National Public Health Institute
Yuko Takeda, Juntendo University, Faculty of Medicine
Simone Tasso, former HPH regional Network Italy-Veneto
Sione Tu'itahi, IUHPE, Health Promotion Forum of New Zealand
Hans Verrept, Intercultural Mediation and Policy Support Unit, FPS Health, Belgium
Anna-Kristina Wahl, Austrian National Public Health Institute
Bożena Walewska-Zielecka, HPH Governance Board
Yoshie Yuki
Nadine Zillmann, International Conference Secretariat

協賛・後援

協 賛

公益社団法人 日本医師会
一般社団法人 秋田県医師会
一般社団法人 栃木県医師会
一般社団法人 埼玉県医師会
一般社団法人 広島県医師会
一般社団法人 広島市医師会
公益社団法人 日本歯科医師会
公益社団法人 日本薬剤師会
一般社団法人 日本病院会
一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会
産業保健研究会（さんぽ会）
全国厚生農業協同組合連合会
日本医療福祉生活協同組合連合会
全日本民主医療機関連合会
公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院
津軽医療生活協同組合 健生病院
利根保健生活協同組合 利根中央病院
社会医療法人 中信勤労者医療協会 松本協立病院
医療生協さいたま生活協同組合 ヘルスサービスグループ
医療生協さいたま生活協同組合 熊谷生協病院
医療生協さいたま生活協同組合 埼玉西協同病院
医療生協さいたま生活協同組合 秩父生協病院
医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院
医療法人財団アドベンチスト会 東京衛生アドベンチスト病院
東京保健生活協同組合
公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院
公益社団法人 山梨勤労者医療協会 甲府共立病院
JA長野厚生連 佐久総合病院
長野県厚生農業協同組合連合会 下伊那厚生病院
公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院
公益社団法人石川勤労者医療協会 寺井病院
公益社団法人 京都保健会 京都協立病院
公益財団法人淀川勤労者医療協会
社会医療法人 同仁会 耳原総合病院
和歌山生協病院
尼崎医療生活協同組合 尼崎医療生協病院
岡山医療生活協同組合
香川医療生活協同組合 高松協同病院
公益財団法人健和会
公益社団法人福岡医療団
公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院
公益社団法人福岡医療団 たたらリハビリテーション病院

社会医療法人親仁会 米の山病院
社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院
社会医療法人健友会 上戸町病院
社会医療法人芳和会 くわみず病院
一般社団法人 ヒューメディカ
一般社団法人ヘルスプランニング金沢
一般社団法人 大阪ファルマプラン
株式会社福岡保健企画
一般社団法人 九州社会医学研究所

後 援

広島市
日本ヘルスプロモーション学会
日本社会医学会

*掲載許可をいただいた法人・団体のみ
掲載しています。

プログラム

2024年11月6日 (水)		
09:00~16:00	9:00~12:00 HPH Newcomers' Workshop HPH新入会委員研修	9:00~16:00 GNTH Conference プレカンファレンス GNTH世界禁煙ネットワーク
	15:30~16:30 HPH Governance Board Meeting 国際HPHネットワーク運営理事会	
17:00~17:45	Formal Opening 開会式 歓迎の挨拶 サラ・ルイーズ・バーバー WHO神戸センター 所長 近藤 克則 日本HPHネットワーク CEO・科学委員会 共同委員長 島内 憲夫 日本組織委員会 委員長 ラルフ・ハーリッド 国際HPHネットワーク運営理事会 議長・HPHスウェーデン ネットワーク コーディネーター クリスティーナ・ディッチャー オーストリア保健省・科学委員会 委員長/オンライン 被爆者の証言 児玉 三智子 日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) 事務局次長	
17:45~19:00	Plenary 1 全体会 1 序章~健康の公正性の重要性と公正性のための医療およびイノベーションの役割 フラン・バウム アデレード大学・オーストラリア リチャード・ウィルキンソン ノッティンガム大学名誉教授・英国/オンライン	
19:00~22:00	Welcome Reception 軽食懇親会	

2024年11月7日 (木)		
09:00~10:30	Plenary 2 全体会 2 医療機関と介護事業所が健康の公正性に取り組むための組織戦略 ハンス・バーレット ベルギー厚生省・ベルギー カン・モヨル カトリック大学医学部・韓国 ダイアン・レビンザミール クラリット・ヘルスサービス健康教育促進部・イスラエル	
10:30~11:00	Coffee Break 軽食懇親会	
11:00~12:30	Parallel Sessions 1 パラレルセッション 1	Poster Session 1 ポスターセッション 1
12:30~13:30	Lunch Break 昼食	
13:30~14:15	Mini Oral Sessions 1 ミニ口演セッション 1	
14:25~15:45	Parallel Sessions 2 パラレルセッション 2	Poster Session 2 ポスターセッション 2
15:45~16:15	Coffee Break 休憩 (コーヒープレイク)	
16:15~17:45	Plenary 3 全体会 3 医療機関と介護事業所が患者の健康の公正性を改善するためのアプローチ ギャリー・ブロック トロント大学・聖ミカエル病院・カナダ 舟越 光彦 日本HPHネットワーク コーディネーター 公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院 リー・ケンホック シン・ヘルスコミュニティー病院・シンガポール	
19:30~22:00	Conference Dinner カンファレンスディナー 会場：リーガロイヤルホテル広島	

2024年11月8日 (金)		
09:00~10:15	Plenary 4 全体会 4 医療機関と介護事業所が地域の健康の公正性に貢献する方法 由井 和也 JA長野厚生連 佐久総合病院 小海分院 岡田 浩 和歌山県立医科大学 薬学部 ミヒ・ラティマ オタゴ大学・ニュージーランド	
10:15~10:45	Coffee Break 休憩 (コーヒーブレイク)	
10:45~12:15	Parallel Sessions 3 パラレルセッション3	Poster Session 3 ポスターセッション3
12:15~13:15	Lunch Break 昼食	
13:15~14:00	Mini Oral Sessions 2 ミニ口演セッション2	
14:10~15:30	Parallel Sessions 4 パラレルセッション4	日本語企画 地域住民による地域での自主的なヘルスプロモーション活動～誰も取り残されない健康な地域をめざして～ 白鳥 操 東京保健生活協同組合 早川 高子 倉敷医療生活協同組合 小森 佳子 医療福祉生活協同組合おおさか 杉本 満 石川健康友の会連合会 事務局長
15:30~15:45	Coffee Break 休憩 (コーヒーブレイク)	
15:45~17:00	Plenary 5 全体会 5 医療部門を超えて公正性を促進するためのHPHネットワークの役割 中山 健夫 京都大学大学院 医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報学分野 チョウ・シュウティ 健康と持続可能な開発財団・国際HPHネットワーク・IUHPE 台湾 Panel discussion パネル・ディスカッション オリバー・グローネ 国際HPHネットワーク事務局CEO・OptiMedis AG・ドイツ 近藤 克則 日本HPHネットワークCEO・科学委員会 共同委員長 ヴァルテル・R・フォンセカ WHOアテネ事務所医療制度と医療の質 担当技官 ラルフ・ハーリッド スウェーデンHPHネットワーク コーディネーター 国際HPHネットワーク運営理事会 議長	
17:00~17:15	Conference Closing & Poster Awards 閉会式・ポスター表彰	
17:15~18:00	Farewell Refreshments 軽食懇親会	

背景と目的

健康の公正性を目指して ～医療機関と介護事業所の貢献～

第30回国際HPHカンファレンスは、世界的なHPHネットワークの重要な節目となります。今回は、アジアで2回目のHPHカンファレンスでもあります。そして、アジア地域はHPHが安定した成長を遂げた地域であり、現在、国際HPHネットワークには6つの国/地域のネットワークと37の組織メンバーが存在しています。30回目の節目を迎え、HPHが最初に設定した目標、ネットワークがこれまでに達成したことを振り返り、そして今後の課題と変化を議論する時を迎えています。

日本HPHネットワークが主催する会議は、核兵器による惨禍を経験してきた都市、広島で開催されます。この事によって、平和が健康の不可欠な前提条件であること、それから、この人生の基本的側面が人権の原則を反映しているものであるため、私たちはこれを維持する共同責任を負っていることを思い起こすことになるでしょう。

日本HPHネットワークと国際HPHネットワーク科学委員会は、歴史的な地で開催されるカンファレンスにおいて、ヘルスプロモーションの主要な原則の1つである健康の公正性への病院と介護事業所の貢献に焦点を当てることを決定しました。これは、健康の公正性が全ての人々が最大限に健康を達成するための前提条件として重要であるとする世界保健機関（WHO）の「オタワ憲章」と一致しているものです。

国連の「健康の社会的決定要因に関する委員会」による2008年の報告書を受けて、国際HPHネットワークは、2010年の第18回国際HPHカンファレンスで、健康の不平等のテーマについて議論しました。2015年には、国連が持続可能な開発目標（SDGs）を採択し、その中には健康への公正性に関連する多くの項目が含まれています。これらを基盤として2021年にはWHOが「ウェルビーイングのためのジュネーブ憲章」を、2023年には健康の不平等データベースを発表しました。この背景を踏まえ、本カンファレンスではさまざまな視点から健康の公正性を探求することを目指します。全体会、パラレルセッション、ミニ口演、ポスターセッションを通じて、健康の公正性に関する重要な問いが提示され、HPHが提供できる洞察や解決策に基づいて徹底的に検証されます。私たちの目標は、参加者が専門職の業務に適用できる実行可能なメッセージを得ることです。

本カンファレンスでは、以下の5つの主要なテーマに焦点を当てます。

●背景の設定—健康の公正性の重要性と医療およびイノベーションが公正性に果たす役割

健康における公正性の重要性を示す科学的根拠があるにもかかわらず、気候変動、生物多様性の喪失、パンデミック、環境汚染、核戦争の脅威、人口の高齢化を含む人口動態の変化、強制移住、戦争と紛争、急速な都市化、インフォデミック、社会的排除、貧困など、健康の公正性に対する多くの脅威が存在しています。これらすべてが広範な不平等に寄与し、ますます多くの人々を健康の不公正の高いリスクにさらしています。医療の分野では、医療および技術革新へのアクセスは、医療機関自体によって健康の公正性を促進したり、逆に、妨げたりする可能性があります。2024年1月1日に日本の西海岸を襲った地震のような自然災害も、既存の健康格差を増幅するため、健康の公正性に対する重大な脅威です。

これらの変化はまた、医療にも影響を与えています。例えば、ケアの経路を混乱させ、緊急治療や治療が必要な精神的な健康問題の必要性を増加させ、医療従事者に高い負担をかけることで多くの人々が退職することにつながります。カンファレンスの全体会1では、これらの問題について詳しく検討し、なぜ健康政策や医療システムが健康の公正性を推進することに真の関心を持つべきか、どのようにして誰も取り残さないことに貢献できるかの戦略を探り、イノベーションが健康の公正性を促進する可能性について掘り下げます。WHOは、財政的困難を負わずに必要な医療にアクセスできるようにする手段として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実施を長年提唱してきました。日本の経済学者である宇沢弘文も、「社会的共通資本」という概念を病院と医療サービスの基本的前提条件として提唱しています（宇沢、2005年）。

●HPH組織が健康の公正性にどのように取り組むか。

世界中の医療機関は、年間何十億人もの患者に非常に重要でしばしば命を救う支援を提供しています。それらはまた、世界の労働力の相当割合を占める重要な職場でもあります。将来の医療従事者のための訓練センターとして、それらの方針と労働文化は彼らの専門的態度にも影響を与えます。したがって、医療機関の組織のルーチンと実践は、健康の公正性の促進に貢献することができますが、その逆もありうることです。これには組織の支援と能力構築が必要です。HPH基準を実施し、組織の健康リテラシーを活用することで、組織は医療の公正性を促進し、より公正な社会の構築に貢献することができます。さらに、協会や類似の団体は、医療システムにおける文化の変化と発展に影響を与え、医療機関の具体的な行動を指導する上で重要な役割を果たすことができます。全体会2では、公正性をサポートする組織の方針の選択を探り、それに関するHPH基準の役割を評価します。

●HPHは、どのようにして患者の健康の公正性を向上させることができるか。

医療機関では、各種の健康ニーズ、およびケアへの期待を持つ、さまざまな年齢、文化、性的指向の人々が見られます。全体3では、医療機関が、ダイバーシティーマネジメントや社会的処方箋の実施、および患者の健康リテラシーの向上に焦点を当てることで、すべての人に質の高いケアを提供できるかどうかを検討します。また、子どもから高齢者までの脆弱なグループに特別な注意が払われ、これらのグループに対する公正性についてHPH戦略がどのように機能しているかについて議論します。

●HPHは、地域社会における健康の公正性にどのように貢献できるか？

全体会4では、健康の公正性に対処する地域レベルのイニシアチブに焦点を当てます。地域ベースの予防サービスと医療提供の革新的な側面だけでなく、病院、医療、および社会的な組織による多部門の行動と他のセクターとの連携についても議論されます。例えば、在宅治療、利用可能な住居、交通、および健康的な食事などが議論されます。強制移住者や様々な危機の影響を受ける人々を含む脆弱なグループへのサポートに特別な重点が置かれます。この点に関して、HPHが障壁を取り除き、地域における健康とウェルビーイングのための物理的およびデジタルインフラを促進する役割にも焦点を当てます。

●HPHネットワークは、健康分野を超えて公正性にどのように貢献できるか？

健康システムをより良く健康の公正性を支援するように適応させる好機は多数ありますが、1回の好機で目標を達成することはできません。しかし、オタワ憲章と「健康をすべての政策に」アプローチ（アデレード宣言、2010年）の精神で、健康の追求のために社会の異なる利害関係を調停し、社会、経済、環境の部門、非政府組織、ボランティア組織、地方当局、産業、およびメディアによる協調行動を提唱することができます。

国際HPHカンファレンスの30年の経験に基づいて、全体会5では、国/地域、国際レベルのHPHネットワークが、健康の公正性に向けたより広範な社会的発展をどのように支援できるのかを議論します。ここで議論する健康の公正性には、身体的および精神的な医療に対するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの提唱、世代間の正義と公正性の重要な側面としてのプラネタリーヘルスの促進が含まれます。